

令和3年度 第2回 人生支援計画策定委員会 議事録

■日 時：令和4年2月2日（水） 14:00～15:15

■場 所：のいちふれあいセンター 第1, 2研修室

■出席者：27名（策定委員12名、行政15名[市長含む]）

1. 開会

①市長挨拶

人生支援計画は、さまざまな支援の在り方や支援を実行していくための協議の場として非常に大切な会議と位置付けられていると思う。どうかこれまで以上に皆さまのお力を賜り、香南市民の人生を支えていくためにご尽力いただければと思う。

②副委員長の選任について

立候補、推薦なし。事務局案…小松副委員長→承認

2. 議題

①R3年度 上半期数値目標及びKPI進捗状況について【資料1】

②各部会報告について【資料2-1～3】 R3年度上半期実施状況等について【資料3-1～3】

③R4年度新規・拡充事業（案）等について【資料4-1～3】

—各部会事務局長より説明—

④部会を超えて取り組みを進めるテーマについて【資料5】

—人権課長より説明—

<議題①～④意見交換>

（委員）

コロナ禍で子育て世帯の方も大変な状況になっていると思う。ファミサポのまかせて会員の活動場所としてにこなん（子育て支援センター）やふれあいセンターの一室が利用できるようになったが、あまり利用されていないと聞く。どれくらい利用があるのか。

また、部会報告書の中でもにこなんの土曜日開設や15時までしか開いていないことへの意見があるが、土日開設についてはかなり前からこの会でも言っているが現在の状況は。コロナの影響もあり厳しいかもしれないが、利用者が困っている現状があるかもしれないので、今後の考え方を聞きたい。

（こども課長）

現在にこなんは利用制限をして開けており、利用数は若干減少傾向にある。土日の開設については以前からご意見をいただいているので検討している。父親や家族で参加してもらいたい育児学級やファミリーデーについては土曜に開設している。できるところから土曜日開設をしながら、アンケートも取って、今後、土曜開催を月1回にするのか毎週にするのかを含め検討していく。

(委員)

ファミサポは学校が終わってからの時間帯で利用したい方が多いと思うので、にこなんが15時までだとあまり意味がないのでは…。

(委員)

平日15時までの利用時間は短い、延長してほしいという声や、土曜日に仕事が休みなので開けてほしいという声が社協に届いているが、対応する予定はないのか。

(こども課長)

今後、検討していく。

(委員長)

にこなんについてはこれからも話を詰めていく必要がある。スタート時から少しずつ市民からの要望も運営の形も変わってきていると思うので、今後どれだけ柔軟に対応できるか、この話は今後も続いていくと思う。

(委員)

学校の先生と支援員不足が気になっている。1人に1人の先生がつかないといけない子が増えてきている。教育長にも学校の現状を見てほしい。

学校の支援に、ということで民生委員が呼ばれるが、何でも民生委員にお願いしていたらなり手がなくなるので、配慮してほしい。

新興住宅地が増えてきて、保護者同士のつながりも薄くなっているようで、交通安全の黄色い旗を次の人に渡す時に、次の人が誰か、どこに住んでいるかわからないので学校へ返してくる方がいると聞いた。今後、災害が起きた時に地域がバラバラでまとまりがないと困るので、うちの地区では学校運営協議会があいさつ運動を2月21日に実施予定。佐古地区全体に声をかけて、今後も継続していく予定。これが各地区へ広がって行って、香南市はみんながあいさつをする、ということになると香南市も良くなると思うのでいろいろと考えていきたい。

(委員長)

良い取り組みは、広報やケーブルテレビで周知ができていくと他の地区でも「うちでもやってみよう」と広がっていくと思う。

(委員)

外国人のコミュニケーションについて、うちにベトナム人の従業員がいて、地震等災害について通訳を通じて説明をするが、地震がない国の方だとどれくらいの揺れであれば避難が必要なのか、判断できない。例えば、このサイレンが鳴ったらすぐに高台へ避難を、というように音で認識ができれば、日本語が理解できなくてもどの国の人でもわかるのではないかと思うので検討いただけたらと思う。

(委員)

資料Ⅰを確認すると1つ1つの課題に丁寧に対応していると感じる。一方で、コロナ禍で子どもへの影響が心配されている。No21、22を見ると不登校の発生率(小学校、中学校)はコロナ前と比較してあまり変わらないが、No18、19の将来の夢を持つ児童生徒の割合が大幅に下がっているのが気になった。これは全国的なものなのか、香南市の特徴なのか。また、今後の取組にキャリア教育や地域学校協働本部事業と書いているが深掘りして教えてほしい。

(学校教育課長)

夢をもつ児童生徒の割合については、申し訳ないが判断材料がないため他と比較できない。ただ、現場からは「アンケート結果の数値としてはあがっていないが、不安定な状態にある子が増えている」との声もある。コロナ禍で子ども同士の関わり合いに規制がかかり、給食や掃除も無言で、本来の姿である子ども同士の関わり合いの練習ができない状況が続いているので、長く続くと数値にも今後現れるだろうと予想している。

将来の夢ということ言えば、今までは地域の方との交流や職場体験等の積み重ねが自分の未来を描くことにつながっていたと思うが、そういった貴重な体験がコロナ禍で行われていないので、この数年の影響が今後出てくると思われる。

ただ、体制システムはかなり構築されてきている。コロナが収束したら、地域の方からも学校へ入りたい、見に行きたいという声もいただいているので、一気に交流できるようになって、子ども達にとって先につながるキャリア教育もできるようになると考えている。

(委員)

例えば、高知出身で20代のころは生活が不安定だったが現在はメキシコで起業している40代の方がいて、その方が高知の子どもたちの役に立ちたい、Zoomで自分の経験談を話してもいい、ということを書いていた。オンラインの時代なので活用できるところは活用を。

(委員長)

コロナ禍を逆手にとって、世界とつながるということもできるので、工夫が必要だと思う。

(委員)

先ほど民生委員の話が出たが、赤岡、吉川地区ではゼロの付く日にあいさつ運動も兼ねて朝、街頭指導をしている。あいさつをすることで話しやすい雰囲気ができている。他の地区も民生委員が中心となって実施していると聞いている。

資料ⅠのNo5について、指標を人数から件数に変更することだが、R4以降の目標値が人数のままになっている。

(こども課長)

No5の目標値については、相談数が多ければ良いというわけではないので、目標値を設定しない、ということに部会で決定した。削除が抜かっていたので削除する。

(委員)

No47 のメタボリックシンドローム該当者割合が増えているが、コロナの影響もあるのか。特定保健指導を受けている方はどれくらいの割合いるのか教えてほしい。

(健康対策課長)

コロナ禍において巣ごもり生活での運動不足、また飲酒量も増えており、メタボリックシンドロームの割合が高くなっている。特定健診を受けた方で指導を実施した方は、例年だと対象の2～4割程度。コロナで受診者数が落ち込んでいて、対象者の割合も例年よりは減っているが、実施割合は2割くらいにはなると思う。

(委員)

資料4-2の新規事業「歩いた距離の見える化」について、良い取り組みだと思う。楽しく歩ける仕組みづくりや仕掛けの案があれば教えてほしい。

(生涯学習課長)

安全に歩いてもらうために歩道があるところを想定している。今のところ目新しい案は出せず、ポスター等で周知していくことで止まっている状態。委員の皆さんからも良いアイデアがあればぜひ教えていただけたらと思う。

(委員)

ここ何年か取り組みを進める中で、ラインやメールを活用している事業が随分増えたと思う。HPにも力を入れているなど感じる。来年度、新規事業の中にガイドブックの改訂があるが、ガイドブックやマップは紙だけではなくネット・スマホで見られるようにしてもらいたい。

コロナ禍で、外出を控えている方、特に高齢者が多いと聞いた。認知症カフェや講座になかなか集まれない状況の中で、逆にこちらから高齢者を訪問することはできないのか。介護、医療の部分になってしまうかもしれないが、皆さんが家から出てこられない状況の時には訪問して話を聞くことも大事ではないかなと思った。そういった取り組みはあるか。

(高齢者介護課長)

確かに、こちらから訪問してお話を聞くということは大事だと思う。高齢者介護課では、近所の方や民生委員から情報が入ったら、相談員や保健師が訪問している。

認知症カフェについては、例えば喫茶店の空いている時間帯を活用させていただいて、協力してくれるお店にのぼり旗を立てる等わかりやすく周知して相談の場を増やしていく、ということも検討している。

去年、コロナで「お達者教室」が休止した際には、支援員が利用者の家を訪問して健康状態の確認や困っていることがないか等の確認を行った。

(委員)

香南市の外国人が多くて驚いた。研修生や高知大の留学生等、どういう立場で来られた方が

多いのか、把握していれば教えてほしい。立場が違えば対応も変わってくると思う。また、外国人の方とコミュニケーションをとることで、市民の教育文化を高める一つのツールとなるのではないか。

(人権課長)

そこまでは把握できていない。今後、部会の中で取り組みを進めたいと思う。

(委員)

健康・スポーツに関する事で、思いつきだが市長が前面に立って「一緒に走ってメタボ解消しよう」とか「三宝山を散歩しよう」とか、アピールしてはどうか。

婚活について、自分の子どもやその友達にも独身が多い。気軽・気楽に参加できるイベントを検討してもらえたらと思う。

(委員)

各課を横断した事業がいろいろあるので、各課、NPO等関係団体とも連携して取り組みを進めてほしい。

(委員長)

コロナ禍で疎遠になってしまった習慣が身についてしまうとなかなか元に戻れないが、私たちはそれを取り戻す準備を進めていかなければならない。

にこなんの土日開設は以前から何度も出ている課題なので、今後も引き続き検討が必要。

全体を通して言えるのは「地域とのつながり」に尽きる。人生支援を支えていくのが地域のつながりだと思うので、どうやってつながっていくかをこの計画の中で考えていく。

外国人が多くいる中で、災害・病気・出産等どうやってサポートしていくか、私たち委員も考えていく必要があると思う。

3. 閉会